この町で、この地で笑って老いたい ～そのために今すべきこと～

【まち協だより】

令和７年１０月号

電話（FAX）82-0933
発行：山上まちづくりの会事務局

●自治防災部　日南町総合防災訓練

令和7年度日南町総合防災訓練が10月5日(日)午前8時30分から開催されました。

豪雨に伴う複合災害を想定した訓練（情報伝達及び被害対応、個別避難計画の検証、自主避難所解説など）を行いました。山上センターに常備している非常食も試食し、避難訓練に参加された方からは、「非常食は量も充分で、味も美味しい。」との感想をいただきました。

試食した非常食。水で作れる五目ごはんや、手軽に食べられるビスコなど。

●交流活性化交付金を使って何かチャレンジしてみませんか！

令和８年度の交流活性化交付金申請の受付が始まります。講師料や印刷代、専門知識や技術が必要な作業の外部委託料、運搬費、保険料、機材借り上げ料などが補助されます。令和７年は地域振興部のホタルの国おもてなしで使う長机とベンチを交付金で 購入しました。備品購入は３万円から３０万円まで。備品購入以外は３万円までの買物は全額補助、それ以上の買物は半額補助になります。

まち協の役員部員さんでなくてもチャレンジできます。申請書類の作成は事務局で代行し、地域づくり推進課でのプレゼンテーションにも同行します。申請されたチャレンジ事業は来年度のまち協事業としてバックアップしますので安心です。　興味のある方は１１月初旬までに山上地域振興センターにお問い合わせください。

●まちづくり懇談会

令和７年１０月１７日(金)の１８時３０分から、まちづくり懇談会が行われました。今回は「みんなで支える日南病院の未来」というテーマで町長から話を伺いました。参加者からは「病院建設が町財政を圧迫し、住民サービスが低下することはないか」などの質問が出されました。町としては今は国の医療政策の過渡期であり 2026 年の診療報酬改正の行方を慎重に見極めたい。病院運営も住民サービスであり、町民・病院・行政が心を一つにし、未来の地域医療をともに築いていきたいと回答されました。２つの病院候補地（道の駅裏手・文化センター隣駐車場）は一旦白紙に戻されます。

●知った人から得をする！「届け出」だけでもらえるお金　連載スタート

まち協だより裏面「小説内藤岩雄」の連載が終了し、来月から知った人から得をする！「届け出だけでもらえるお金」を連載します。11 月は『老齢基礎年金』、お楽しみに！

二千六百の梅と馬の絵を残して　２１

昭和十五年は、昔の年の数え方で二千六百年といわれる年でした。岩雄は、この年を記念して、二千六百匹の馬が富士山のすそ野を駆け巡っている絵と二千六百個の花をつけた梅の木の絵を描くことを考えつきました。

「おじいさん、九百六十三です。」

「九百六十四です。」

たくさんの数のためわからなくなってしまうので、岩雄が一つ馬を描くと、そばでマスが豆を一つ拾うのです。こうして、二千六百の馬と梅の絵を描いて、日本の国の発展を願って、二千六百年を祝いました。

昭和十六年、京都大学での勉学の途中、岩雄は脳出血（のうしゅっけつ）という病気にかかってしまいました。この病気にかかると、身体が動かなくなることが多いのですが、幸いに岩雄は病気が軽くて、歩くことも本を読むこともできました。ただ書く文字は読みにくいものになり、得意だった馬もわからないようなものしか描けなくなってしまいました。そして、なによりも「物言わず」になってしまったのです。

その後、病気のほうは良くもならず、悪くもならずの様子でしたが、昭和十九年九月三日、最後の仕事と考えた「雲伯古代史の研究」を途中にして、七十一才の生涯を終わりました。太平洋戦争が終わる前年のことでした。

昔の日野上村と山上村との村境にあたる大入峠の頂上に、岩雄をしのぶ人々の手によって、岩雄の句をほった碑が建てられています。

錦着（にしきき）て帰（かえ）る故郷（こきょう）の若葉かな

向学心に燃えて故郷を出ていく教え子たちが、志をはたして帰ってくることを願い、またやさしく迎えてくれる故郷の山や川の美しさをたたえて作った句です。

完（小説内藤岩雄　掲載終了）